

8 環境教育における評価

学校における環境教育は、各学校の教育課程に位置付けられ、意図的、組織的、計画的に行われるものであり、児童・生徒の学習活動の評価や、それを踏まえた指導の改善等を伴うものです。以下に、環境教育における評価に関する留意点を挙げます。

(1) 環境教育における評価の観点等

環境教育は、基本的に、その活動が位置付けられた各教科等の目標やねらいを踏まえて行います。したがって、多くの場合、環境教育における評価は、その活動が位置付けられている各教科等の評価規準に照らして行うこととなります。

その際、各教科等の単元(題材)の内容と「環境教育で対象とする主な内容(例)」(9ページ)との関連を整理した上で、単元(題材)の評価規準との関係を検討しながら「環境教育で育成する主な資質・能力(例)」(7ページ)を設定します。また、単元(題材)全体を通じた学習状況を捉えた上で、評価していくことが大切です。

(2) 評価の方法及び時期

学校における環境教育は、学校の教育活動全体を通して、各教科等の指導計画に位置付けて実施されます。よって、環境教育における評価は、児童・生徒の学習状況を単一の時期や方法で評価するのではなく、各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質や学習のねらいに応じて評価方法を工夫することが大切です。

また、学校では、指導計画を編成、実施、評価し、改善を図るという一連のサイクル(PDCAサイクル)を繰り返しながら、児童・生徒のよりよい成長を目指した指導を展開しています。したがって、評価の時期については、学期末や学年末だけでなく、学習のねらいに応じて、単元(題材)ごとや活動ごとに実施するなど、学習の過程を踏まえた適切な評価を行うことによって、児童・生徒の学習状況や育成された資質・能力を総合的に評価することが大切です。

そのためには、ノートやワークシート、レポート等に記述された児童・生徒個々の考えや感想等の学習の記録、それらを基にして行った評価の記録等を累積、整理しておくことが重要になります。

なお、各学校での環境教育が、児童・生徒の主体的でより充実した学習となるようにするためには、評価のための評価に終わらせることなく、評価の結果によって一人一人の児童・生徒の学習改善に生かしていくことが重要です。また同時に、教員の指導にもその評価結果をフィードバックすることで、評価後の指導を改善していくことが求められます。

P D C Aサイクル

